

## 3 Rプラスチック 川瀬産業、化学企業向け豊富な実績

2023年7月19日

3 Rプラスチック特集（2023年）



川瀬社長

化学を熟知するリサイクラーとして存在感を増す川瀬産業。マテリアルリサイクルが困難な薬品付着の使用済み容器も洗浄、粉砕し再資源化できるのが強みだ。近年は排出元の廃材をリサイクル製品としてリターンする独自のクローズドリサイクルに関心が集まり、カーボンニュートラルにもつながるとして、化学業界以外からの問い合わせも増えている。

1966年創業以来、化学業界で発生する使用済みポリエチレン（PE）やポリプロピレン（PP）を中心にプラスチックのマテリアルリサイクルを展開。年商は30億円を超え取扱量も年間2万トンに迫る勢いである。500社以上の化学系企業と契約、引き取り先にリサイクル製品として戻すクローズドリサイクルのほか、独自ブランド「リプラギ」シリーズとして製品化、国内外で登録商標も取得する。化学関連の知見もあって、PEやPP以外もリサイクル処理先を紹介、ワンストップでの対応が信頼性につながる。

最近では全国展開にも力を入れており、とくに静岡工場（磐田市）は主力拠点になりつつあり、直近では未洗浄容器の対応を始めたほか、マテリアルリサイクル製品向け設備の拡充を進める。昨年は「リプラギ」製品シリーズの一つであるフロアマットの新アイテムの販売展開を開始、専用設備は高稼働が続く。今後製品化について

は静岡工場に集約し増産を進めていく方針だ。

本社工場も設備の更新、洗浄力を引き上げており、薬品付着容器のマテリアルリサイクル要望のさらなる増加に対応すべく受け入れ態勢強化を進めている。期待するのが半導体市場。台湾TSMC進出で今後九州地区での半導体産業の操業が拡大するなか、工程に用いる薬剤とともに使用済みプラスチック容器のリサイクル需要が見込まれるため、「容器の循環に当社が果たす役割は大きい」（川瀬幸久社長）とみる。